

動画解説まとめ 35 / AI活用

Skyworkで資料・画像・動画を仕上げる活用集

Skyworkの実演と日本担当者への取材をもとに、資料・画像・動画・音楽・音声メモの使い方を整理。生成した素材を仕事に使える形へ直す方法と、活用事例の見方をまとめます。

この動画の要点

Skyworkの機能紹介と、日本担当者へのインタビューを組み合わせた動画の要約です。スライドの文字や画像を部分ごとに直す方法、画像から動画を作って長さや音を調整する流れ、手描きの図からキャラクターを作る例などを整理しました。電子書籍や作詞への活用も紹介されますが、具体的な収益額が実証された手順ではありません。ツールの数や評判だけでなく、自分が作る成果物と修正のしやすさから選ぶ視点を持ち帰れる資料です。

01 作りたい成果物を伝え、調査・構成・制作をまとめて支援してもらう。

02 サムネイルはスライド作成を使い、文字や画像を部分ごとに直す例がある。

03 映像は生成だけでなく、尺の調整やBGMまで含めて一つの作品にする。

04 活用事例と収益実績を分け、自分の用途に合う結果が出るかで判断する。

資料の使い方

動画の要点を読み返し、紹介した手順を実践するときにお使いください。本文の時刻を押すと、元動画の該当箇所を開けます。

元動画：【ガチのギリギリ対談】AI副業で稼ぐ方法をAIエージェントの責任者と一緒に徹底解説!!【スカイワーク】【Skywork】

<https://www.youtube.com/watch?v=32UP6vAU87Q>

1. AIエージェントを『成果物を作る窓口』として使う

動画の該当箇所 3:09 / タップして開く

動画では、AIエージェントを、依頼された目標に向けて必要な手順を考え、調査や資料作成などの作業を進める仕組みとして説明しています。例は『Skyworkの魅力を伝えるプレゼン資料を作る』という依頼です。何を調べ、どう構成し、各ページをどう作るかまで支援してもらう使い方が紹介されています。

Skyworkの特徴としてあべさんが挙げたのは、文章、画像、スライド、動画、音楽などを一つのサービスから扱える点です。作りたいもののたびに別のサービスを探して操作を覚える負担を減らせる、という初心者向けの評価でした。一方、たくさんの機能を使うこと自体が目的ではなく、まず作りたいものを選ぶと操作の入口が決まります。

料金や無料ポイントについても紹介されていますが、動画時点の説明です。実際に試す際は、作りたい種類の成果物が出せるか、その作業でどれくらいポイントを使うか、直したい箇所を修正できるかを確かめる材料として、動画の実演を見ます。

- ・ スライド：発表や説明に使う資料。
- ・ 画像・イラスト：サムネイルや記事のアイキャッチ、キャラクター。
- ・ 動画・音楽：映像素材やチャンネルのエンディング。
- ・ 音声メモ：録音の整理と、記録内容についての質問。

2. スライドは見栄えと『自分が話せる内容』を合わせる

動画の該当箇所 9:26 / タップして開く

画面の用途からスライドを選び、テンプレートを指定してプレゼン資料を作る例が示されています。別の例ではNano Banana Proを使った画像表現のある資料も生成しています。見た目が整うことに加え、発表時に何を話すべきか分かる構成かどうかを確認するのが、あべさんの比較のポイントです。

あべさん自身は登壇時に、見出しを大きく置き、説明を口頭で補うシンプルな資料を好むと話しています。ただし、発表に慣れていない人には、話すべき項目が箇条書きで書かれた資料の方が、内容を思い出しやすいとも述べています。文字が少なければ必ずよい、多ければ必ず悪いという話ではありません。

生成された資料の文章が自分の話したい内容からずれると、見た目はよくても説明しづらくなります。完成画面を眺めるだけでなく、実際にそのページを見ながら何を話すかを考え、不要な説明や言い方を直して使うという視点が紹介されています。

- ・ 材料：資料のテーマと伝えたい内容。
- ・ 操作：スライドの入口とテンプレートを選び、資料を生成する。
- ・ 確認：見出しと本文が、自分の説明したい内容につながっているか。

3. サムネイルは、文字と画像を部分ごとに修正する

動画の該当箇所 14:04 / タップして開く

この実演で重視されているのが、レイヤーごとの編集です。レイヤーとは、背景・文字・写真などを別々の部品として扱う考え方です。一枚にまとまった画像へ『ここだけ変えて』と頼むと他の部分まで変わることがありますが、部品が分かれていれば、選んだ箇所を直す作業に集中できます。

動画では、画像生成の入口ではなく、スライド作成の入口からチャンネルのサムネイルのようなスライドを作っています。生成後は文字を書き換えたり、位置を動かしたりできます。複数の画像のうち一つを選び、『AI画像生成』からスマートフォンのデザインを別のものへ変える例も紹介されました。背景や文字を保ちながら素材を差し替える発想です。

用途としてはYouTubeのサムネイルやnoteのアイキャッチが挙げられています。最初から一度で完成を狙うより、全体の方向が合った案を出し、その後で言葉や素材を整える流れを参考にできます。なお、この機能は撮影時点では更新直前で、提供されたデモを挟んで説明されています。

- ・ スライド作成で、欲しいサムネイルの方向を伝える。
- ・ 文字を直し、位置を調整する。
- ・ 差し替えたい画像だけを選び、変更内容を指示する。

4. 画像から動画を作り、長さや音を整える

動画の該当箇所 17:41 / タップして開く

動画生成のデモでは、画像と指示を入力して映像にする方法が紹介されています。また、始まりと終わりの二枚の画像を指定し、その間をつなぐ動画を作る例もあります。完成形のイメージを文章だけで伝えるのではなく、映像の始点・終点を画像で渡す使い方です。

生成した映像は、はさみのマークから編集画面へ進み、対象の動画を選んで長さを調整したりカットしたりします。さらにサウンドエフェクトを加える機能や、『Create Music』から映像に合うBGMを付ける流れも説明されています。生成した一つの映像を、そのまま完成品とせず、尺と音を合わせて使う考え方が分かります。

あべさんは、動画と音楽をそれぞれ別のツールで作って組み合わせる作業に慣れていない人にとって、一か所で進められる点を評価しています。この部分も更新前に提供されたデモに基づく紹介です。動画内の画面や機能名が、現在利用できる内容と同じとは限りません。

- ・ 材料：元画像、必要に応じて始まりと終わりの画像、映像の指示。
- ・ 操作：動画生成後に対象クリップを選び、尺やカットを調整する。
- ・ 完成物：効果音やBGMを合わせた映像素材。

5. スマートフォンで音楽・キャラクター・音声メモを試す

動画の該当箇所 20:24 / タップして開く

スマートフォンアプリでは『作成』から用途を選んでいきます。音楽の例では、YouTubeチャンネルのエンディング曲を作りたいこと、チャンネル登録を呼びかける歌詞にしたいことを伝え、生成曲を試聴しました。使用目的と言葉の方向を合わせて伝える依頼です。商用利用についても動画内で説明されていますが、音楽の利用条件と著作権の扱いは同じ意味ではないため、利用時の提供条件を確認する対象として捉えます。

イラストでは、画像の入口からプラスを押してキャンバスを開き、初心者マークを付けたロボットを手描きしています。その絵を保存して送り、YouTubeのゆるキャラにしたいと説明すると、手描きの要素を反映したキャラクターが生成されました。上手な完成画ではなくても、形や付けたい印を絵で伝える材料として使う例です。

音声メモの実演では、夕食を麻婆豆腐にするか寿司にするか話して録音し、録音後に『スーパーで何を買うとよいか』を質問しています。記録した内容をもとに返答が出るため、録音・要約・質問をつなげられる点が紹介されています。会議の録音を整理した後、内容について追加で確認する用途に通じる機能です。

- ・ 音楽は、使う場面と歌詞の方向を伝えてから試聴する。
- ・ キャラクターは、手描きの形と文章による用途説明を組み合わせる。
- ・ 音声メモは、録音を保存して終わらず、その内容について質問する。

6. 電子書籍と作詞の事例は、何が確認できるかを分ける

動画の該当箇所 28:07 / タップして開く

日本担当者が紹介した活用事例の一つは、Skyworkで本を作り、Amazonの無料ランキングで上位になった利用者です。長文を作る機能や、自分の材料を参照しながら内容を作る機能が活用に向くという説明がありました。一方、紹介されたのは無料ランキングでの実績であり、この対談だけから売上や利益を算出することはできません。

もう一つは、音楽関係者が歌詞の作成に使っている事例です。リズムに合う単語や区切り方について、利用者からよい反応があると担当者が語っています。これも担当者が伝えた利用事例であり、案件獲得から納品、報酬までを実演したものではありません。

この動画から具体的に持ち帰れるのは、成果物の候補と制作・修正の方法です。資料を作れること、電子書籍を出版できること、その作品が売れることはそれぞれ別の段階です。機能を収益と直結させず、まず自分の用途に使える成果物を仕上げる部分を参考にします。

7. ツール名より、得られる結果と条件で比較する

動画の該当箇所 34:23 / タップして開く

対談では、ユーザーはサービス名そのものより、生成された結果のよさで選ぶという見方が示されています。同じ費用でも、作りたい資料に合うか、画像の修正がしやすいか、動画と音楽をまとめて扱いたいかなどで選択は変わります。特定のツールだけを永久に最良と決めるより、用途に合う候補の一つとして捉える内容です。

後半にはデータの保管場所、学習への利用、セキュリティ認証に関する担当者の説明もあります。これらは動画撮影時の企業側の説明で、認証については取得予定の話も含まれます。現在の安全性を本資料が検証・保証するものではありません。使いたい業務の内容に対し、現行の説明と利用条件を確かめる論点として区別します。

実践の進め方

01 作りたい成果物を一つ選ぶ

動画の複数の実演を実践順に整理しています。資料・画像・動画など、まず作るものを決め、該当する作成メニューから目的を伝えます。

動画 9:26

02 スライドを発表しやすい内容へ直す

生成された見出しや箇条書きを見て、実際に話したい内容とずれていないかを確認します。自分の説明に合わせて文字量を調整します。

動画 10:13

03 画像を部品ごとに調整する

サムネイルのようなスライドを作り、文字や位置を直します。差し替えたい素材を選び、AI画像生成から変更内容を伝えます。

動画 14:26

04 動画の尺と音を合わせる

画像から動画を生成し、編集したいクリップの長さを調整します。必要に応じ、動画に合う音楽を作る機能を使います。

動画 18:52

05 完成物を自分の用途で評価する

他のツールとの比較では、名前や機能数だけでなく、得られた結果が自分の目的に合うかという対談の視点を使います。

動画 34:37

AIへの相談例

編集部が作成した活用例です。動画内の発言をそのまま書き起こしたものではありません。

【編集部による活用例・動画の逐語プロンプトではありません】この資料を根拠に、記載外の補足は区別し、私の状況を質問してから進めるようにしてください。私が作りたい成果物、使う場所、手元にある画像や文章、修正したい部分を確認してください。その回答をもとに、この資料で紹介された機能のどれが関係するかと、生成後に自分で確認する点を整理してください。現在の料金・利用条件・画面操作は推測で断定しないでください。

資料について

- ・本資料は動画の字幕をもとに整理した要約です。元動画はSkyworkの企業案件で、日本担当者へのインタビューを含みます。
- ・機能や料金、ポイント付与、商用利用、データの扱いは動画時点の説明です。更新前の提供デモを使った紹介も含まれます。
- ・電子書籍の順位や作詞への活用は、担当者が紹介した個別事例です。具体的な売上・利益や成果の再現性を保証するものではありません。